日野第一地区「協働の地域づくり」意見交換会

テーマ：ふれあい　ささえあいのまち
こどもと高齢者の見守りについて話そう

【開催日】　平成29年６月11日（日）　9:30～11:30　　【場　所】　吉原小学校体育館
【参加者】　75名（自治会関係者、委嘱委員など）

【概　要】

意見交換に先立ち、こどもの見守りとして「港南ひまわり８３（ハチサン）運動」、高齢者の見守りとして「ひまわりホルダー」の紹介がありました。

その後、「こどもの見守り」と「高齢者の見守り」のテーマで各２グループにわかれて具体的な活動の様子や日ごろ感じている課題、今後取り組みたいことなどについて意見交換しました。

【主な意見等】

■下校の見守りを皆で取り組みたい。シルバークラブの人にも広げたい。
■学校以外のこどもの居場所づくりが必要。
■助ける、助けてもらえる関係が必要。
■小さなグループ単位で支援が必要な人にアンケートをとって把握している。
■防災訓練をきっかけにマンション内の体制ができるとよい。
■今後、支えあいマップの勉強会を行い、まずはモデルでマップをつくる予定である。

芹が谷地区地域支えあいネットワーク（芹が谷地区意見交換会）

テーマ：「芹が谷ひまわりプラン」進捗状況について
災害時自力で避難できない方の支援について

【開催日】　平成29年６月17日（土）　13:30～15:30　　【場　所】　浩南台町内会館
【参加者】　50名（自治会関係者、委嘱委員など）

【主な内容】

1　開催にあたって

2　平成29年度港南区区政運営方針について

3　第3期芹が谷地区地域福祉保健計画
　芹が谷ひまわりプラン進捗状況について

4　自治会・町内会で考える災害時自力で
　避難できない方の支援について
　・要援護者についての勉強会
　・グループワーク
　・各グループ発表

5　総評（藤田　誠治会長）

笹下地区意見交換会
テーマ：「港南桜まつり」のこれからについて皆で考える

【開催日】　平成29年６月17日（土）　18:00～19:15　　【場　所】　港南中央地域ケアプラザ
【参加者】　42名（自治会関係者、委嘱委員、ボランティア団体　ほか）

【主な内容】

1　開会あいさつ

（荻久保笹下連合町内会長）

2　平成29年度港南区区政運営方針について

3　地域の意見交換

〈テーマ〉

「港南桜まつり」のこれからについて皆で考える

4　閉会あいさつ

（原田笹下連合町内会副会長）

野庭住宅地区意見交換会
テーマ：にじいろさんごプラン～企画案の発表～
災害時要援護者対策について

【開催日】　平成29年６月２４日（土）　１３:30～１５:30　　【場　所】　カーサ野庭地域交流室
【参加者】　４２名（単位町内会の会長や地域活動者ほか）

【主な内容】
１、はじめに（木村 連合自治会会長）
２、平成29年度 港南区運営方針について
３、にじいろさんごプラン～企画案の発表～
(1)第２自治会
「こどもたちを地域活動に引きつけるﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ」
(2)第１自治会
「助け合いボランティアによる見守り活動」
(3)第６自治会「住民全体で災害に備えよう」
(4)第３自治会「住民全体で災害に備えよう」
(5)第５自治会
「災害時に地域で助け合える仕組みづくり」
４、グループ討議
〈テーマ〉災害時要援護者対策について
(1)これまでの取組や今後の課題について話し合おう
(2)グループ発表
５、まとめ（木村 連合自治会会長）

下永谷連合地域づくり意見交換会
テーマ：地域福祉保健計画「下永谷地区別計画」について

【開催日】　平成29年６月24日（土）　15:00～17:00　　【場　所】　西港南台自治会館
【参加者】　約50名（単位町内会の会長や地域活動者ほか）

【主な内容】

１、開会のあいさつ
２、29年度 港南区政運営方針の説明
３、第３期計画の推進について
（１）下永谷地区別計画とは
（２）地区の防災への取組
（３）民生委員から見る災害への不安
４、グループワーク
・各グループでの意見交換
・各グループからの発表
５、まとめ
６、閉会

野庭団地地区地域支えあいネットワーク会議（野庭団地地区意見交換会）
テーマ：港南区の地域防災と災害時要援護者対策について

【開催日】　平成29年６月25日（日）　10:00～12:00　　【場　所】　野庭地域ケアプラザ
【参加者】　４８名（単位町内会の会長や防災担当者、地域活動者ほか）

【主な内容】
1、開会のことば（向後 連合自治会会長）
2、29年度 港南区政運営方針の説明
3、港南区の地域防災について
　①いっとき避難場所、地域防災拠点、広域避難場所について
　②防災５箇条について
4、災害時要援護者対策について
5、自治会の事例発表と意見交換
　①防災・減災についての活動状況
　　・事例発表（第2自治会・第12自治会）
　　・意見交換
　②要援護者の見守りについて
　　・事例発表（第1自治会・第4自治会）
　　・意見交換
6、まとめ（林 地区社協会長）

永野地区全体会議（永野地区意見交換会）

テーマ：「第3期くじら計画を進めていこう！」

【開催日】　平成29年６月25日（日）　13:30～15:30　　【場　所】　下野庭町内会館
【参加者】　59名（自治会関係者、委嘱委員、ボランティア団体　ほか）

【主な内容】

1　はじめに（三橋永野連合町内会長）

2　平成29年度港南区区政運営方針について

3　グループ討議の説明

4　グループ討議

〈討議内容〉

くじら計画３つの基本目標について各自治会町内会で取り組むべきテーマを話し合おう

5　グループ発表および質疑応答

6　まとめ（黒川永野地区社協副会長）

永谷地区地域支えあいネットワーク（永谷地区意見交換会）
テーマ：「～出されたアイデアの実現に向けて～」

【開催日】　平成29年７月10日（月）　14:30～16:30　　【場　所】　芹が谷地域ケアプラザ
【参加者】　26名（自治会関係者、委嘱委員、ボランティア団体、学校関係者　ほか）

【主な内容】

1　挨拶（井出永谷連合町内会長）

2　本日の流れ説明

・支えあいネットワークとは？

・今年度の取組について

・作業の説明

3　グループワーク

「出されたアイデアの実現に向けて」

4　全体発表

5　総評（若林永谷地区社協会長）

日下地区「ひした未来カフェ」（意見交換会）
テーマ：みんなが主役！未来の夢がかなうまち日下

【開催日】　平成29年９月３日（日）　14:00～16:00　　【場　所】　日下地域ケアプラザ
【参加者】　６６名（地域参加者44名、他　区役所、区社協、ケアプラザ職員など22名）

【概　要】
　今まで５回開催してきた未来カフェの内容を振り返り抽出したテーマについて子どもから大人まで参加し、７つのグループに分かれ、話し合いを進めた。
　第１ラウンドは、現在行われているあいさつ運動や川の学校などの活動について取組内容や効果を話し、課題となっている点について、課題解決や活動の広がりを検討した。
　第２ラウンドは、今までの未来カフェで出たアイデアについて、実現していないものを念頭に置きながら、「未来に伝えたいこと・残したいこと」についてグループごとにまとめて発表した。

【主な意見等】
　楽しい２時間であり、大人から子どもまで意見交換できたという人が多かった。
・日下の未来を真面目に語り合える場が大切である。
・日下に住んでいて良かったという町を目指したい。
・これから楽しいことがはじまる、新しい活動が生まれる予感がした。

日野地区「日野地域づくり意見交換会」（意見交換会）

テーマ：もしも災害が起こったら！隣近所の要援護者の方の支援について考えよう！

【開催日】　平成29年９月23日（土）　13:30～15:30　　【場　所】　日野南地域ケアプラザ
【参加者】　７１名（地域参加者56名、他　区役所、区社協、ケアプラザ職員など15名）

【概　要】
　災害時要援護者対策をテーマに同一町内会をベースに６つのグループに分かれ、話し合いを進めた。
　第１部では、導入として東日本大震災のＤＶＤを視聴し、災害の恐ろしさを再認識してもらった上で、榊原課長から、要援護者支援について講演を行った。
　第２部では、各グループごとにテーマに基づき、災害時に要援護者の方に具体的にどのような支援ができるのか、①できそうなこと②日頃から備えておきたいことという切り口でグループごとに検討し、発表を行った。

【主な意見等】
・議論は非常に活発で、未連の自治会の人達や同じ自治会内でもあまり話をしたことが無い人達と話をすることができた。
・焦点を絞った話し合いができ、他地域の取組を知ることができてよかった。
・町内会での今後の課題が見えてきたように思う。
・若い世代の方がもっと参加してくれると良い。

野庭団地地区地域支えあいネットワーク会議（野庭団地地区意見交換会）

テーマ：大地震の発生に備える防災・減災対策

◆被災地（熊本）支援体験から学ぶ防災・減災対策

◆高層住宅における防災・減災対策

【開催日】　平成29年10月29日（日）　15:00～17:00　　【場　所】　野庭地域ケアプラザ

【参加者】　４７名（単位町内会の会長や防災担当者、地域活動者ほか）

【概　要】

今年度２回目となる地域支えあいネットワークでは、前港南区危機管理担当で消防局の本村係長を講師に迎え、熊本地震の被災地派遣での経験や避難所でみられた工夫等について写真を交えながらで紹介。

これら踏まえたうえで、野庭団地（高層住宅）として取り組むべき防災・減災対策等について意見交換を行いました。

【主な意見等】

■「団地は地盤が強固で安全」との声もあるが、野庭団地の多くの建物が旧耐震基準で、決して安心とは言えない。

■災害時支援が必要な方について、安否確認も大切だが、実際の避難や防災拠点での受入をどのような体制でおこなっていくべきなのか悩んでいる。

■一部の自治会で用意しているＥバックチェアは扱いに訓練が必要。乗る側も非常に怖さを感じるので、購入したままでなく防災訓練に取り入れてほしい。

イーバックチェアとは？（ミドリ安全株式会社ホームページより）

階段でもケガ人などを
スムーズに搬送できる避難車

EVAC+CHAIR®は世界に先駆けてEvac Chair International Ltd.が開発・実用化した階段避難車です。エレベーターが使用できないような災害時・非常時に、上層階からケガなどで歩けない方を階段から安全・円滑・迅速に避難させることができます。軽量、強固なアルミ合金フレームでモーター・エンジンなどの動力は一切使用しておらず、女性でも150kgの方まで避難させることができます。

本体価格:￥172,000

永谷区地域支えあいネットワーク会議（第２回）
テーマ：「出されたアイディアの実現のために」企画書づくり

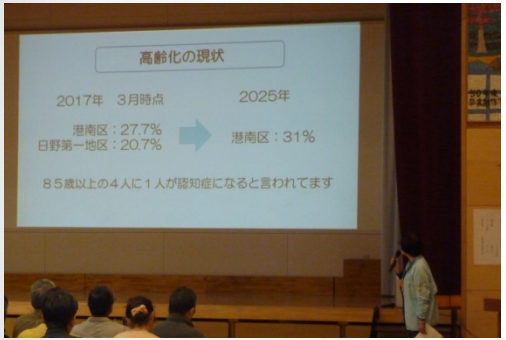
【開催日】　平成29年10月30日（月）　14:00～16:00　　【場　所】　東永谷地域ケアプラザ
【参加者】　25名（単位町内会会長や民生委員、学校関係者ほか）＋地域ケアプラザ、社協、区役所

【概　要】
第１回で出されたプランのうち３つ
①永谷みんなであいさつ運動
②大人から子どもまでつながるみんなのマップ
③高齢者見守りサポーター）
について、具体的に実現するための方策をグループで話し合いました。

【主な意見等】
■子どもたちからアイディアを募集し、あいさつ運動を広げるグッズ（缶バッチ、のぼり等）を作り、来年度から期間を合わせて実施する。
■ケアプラザや学校に大きな地図を用意し、おすすめスポットをマークしてもらい、既存情報も加えテーマ別に整理する。
■ゴミ収集所での情報交換、井戸端会議で情報収集を行い、毎月１回安否確認をする。
■回覧板、集金時など顔を合わせる場を活用し、日頃の見守り活動を行う。

日野第一地区　第２回「協働の地域づくり」意見交換会
テーマ：「認知症を理解し、誰もが地域で明るく生きるために」

【開催日】　平成29年11月12日（日）　10:00～11:30　　【場　所】　吉原小学校体育館
【参加者】　約110名（自治会関係者、委嘱委員、地域活動者など）



【概　要】
　はじめに意見交換会のテーマ設定の意図とひまわりプランの地区の目標について説明がありました。認知症に関する概要説明とDVD視聴により理解を深めたあと、６グループにわかれ、これまでの経験談や、日ごろ感じていること、今後取り組めそうなことなどについて意見交換しました。最後にグループ発表を行い、話し合った内容を共有しました。

【主な意見等】

■認知症のサインにいち早く気づけるよう正しい知識をもつことが大事。
■認知症予防の体操やサロンなどの情報についても知識を得る機会となった。
■自分だけですべての対応はできない。民生委員や行政、施設など周りの人に頼ることも必要。
■子どもの頃から知っていることが重要。若い人の理解がより進むよう研修への参加をよびかけたい。
■普段から顔見知りになり、声をかけることが大事。

ひぎり地区意見交換会　テーマ：子育て世代の地域参加について

●親子科学実験教室
【開催日】11月23日（祝）10:00～12:20
【場　所】日限山小学校体育館
【参加者】120名（子供とその保護者等）

●意見交換会（定例会・こども青少年部会）
【開催日】11月25日（土）、12月10日（日）
【場　所】日限山自治会館、日限山地域ケアプラザ
【参加者】計31名（自治会長、団体会長等）

【概　要】
子育て・働き世代の意見の掘り起こしや地域参加を促すことを目的に企画
①親子科学実験教室
未就学児・児童も楽しみながら学べる科学実験
（二酸化炭素の性質、水の不思議、廃棄物を減らす工夫（風呂敷包み）など）
②意見交換会
保護者等アンケート（41名分）による意見抽出と、結果を受けて意見交換

【工夫が見られたところ】
■男性参加を促すために“科学実験”をテーマに
■スマホ世代を想定し、携帯のＱＲコードでも参加受付

【主な意見等】
■参加しての感想：とても良かった（82.9%）、まあまあ良かった（17.1%）
■子育て世代（20歳～30歳代男性）が主体的に参加。
大人も楽しめたとの感想多数。子供をきっかけに、大人同士の知り合いが増えた。
■先生役の地域の大人達（主に70歳代）と子供達の世代間交流にもなった。
■子育て世代も防犯・防災への取組みに関心が高いことが分かった（世代を超えた共通テーマ）。
■この地域に多くのボランティアの方が活躍していることを知り、自分も参加してみたいとの声もあり。

野庭住宅地区意見交換会

テーマ：にじいろさんごプラン～進捗状況の発表～
「見守り・支えあい」について

【開催日】　平成29年１２月２日（土）　１３:30～１５:30　　【場　所】　カーサ野庭地域交流室
【参加者】　４９名（単位町内会の会長、地域活動者、学校関係者（PTA含む）ほか）

【概　要】

ひまわりプランの地区別計画である「にじいろさんごプラン」について、各自治会から進捗状況を発表いただいた。その後、６つのグループに分かれ、「見守り・支えあい」について意見交換した。

【主な意見等】

■訓練してわかったが、いっとき避難場所の役割を理解していない人が多数いる。また、各家庭で都合のいいようにいっとき避難場所を決めて（変えて）しまっているケースもある。
■雨の日等の訓練では、想定外のことが起こりうるため、様々なケースで訓練が必要。
■要援護者の避難支援など、中学生にもできることがたくさんある。幅広い支援が必要。
■要援護者名簿はいざという時では遅い。普段から用意しておく必要がある、区が提供する名簿も有効。
■不測の事態では、最終的に近隣住民で協力して乗り切ることになる。したがって、日頃から近所付き合いは非常に重要である。
■第五自治会の見守り活動が参考になった。

災害時要援護者安全避難カード

野庭住宅第五自治会長殿　　整理番号　NO.

私は港南区災害時安全避難カードの趣旨に賛同し、同カードに登録することを希望します。また、私が届け出た下記個人情報を自治会長が、地域防災拠点運営委員会、民生委員などへの提供など、災害時(災害への準備を含む)に活用することを承諾します。

(本人または代理者同意署名欄)

平成　　年　　月　　日　　氏　名

住　所	棟　　号室	電話番号	—	民生委員名	
避難支援を必要とする方の氏名	ふりがな　　男・女	生年月日　明・大・昭・平		年　月　日	
		年齢　　血液型		才　型	

避難時の身体状況	1　移　動	1　自立　　2　見守り　　3　一部介助	その他(避難時や安否確認時に考慮してほしいことなど)
	2　意思の伝達	1　伝達できる　　2　伝達できない	
	3　了解度	1　了解できる　2了解できない　3困難	
	4　視　力	【眼鏡使用：　有　　無　】 1　普通に見える　　2　ほとんど見えない	
	5　聴　力	【補聴器使用：　有　　無　】 1普通に聞こえる　2大きい声なら聞こえる 3　ほとんど聞こえない	

家族構成 同居家族	単身世帯　　高齢者のみ世帯　　障害お持ちの世帯 上記以外(　　)

緊急時の家族・知人等の連絡先

氏　名	関　係	住　所	電話番号等

福祉保健サービスの利用状況

サービスの種類	利用曜日	事業社名	所在地	電話等

避難支援を行ってもらえる方(あなたが避難する際に、手助けを行ってくれる方がいれば記入)

氏　名	関　係	住　所	電話番号等

備　考	

要援護者避難所生活支援カード(聞き取りシート)

整理番号　NO

野庭住宅第五自治会長殿

私は、港南区避難所生活支援カードの趣旨に賛同し、同カードに登録することを希望します。また、私が届け出た下記個人情報を自治会長が、地域防災拠点運営委員会、民生委員などへの提供など、災害時(災害への準備を含む)に活用することを承諾します。

(本人または代理者同意署名欄)

平成　　年　　月　　日　　氏名

住　所	棟　　号室	電話番号	—	担当民生委員名	
支援を必要とする方の氏　名	ふりがな　　男・女	生年月日　明・大・昭・平		年　月　日	
		年齢　　血液型		才　血液型	

身体状況	1　移　動	①　自　立　　②　見　守　り　　③　一部介助
	2 意思の伝達	①　伝達できる　②簡単なことは伝達できる　③　伝達できない
	3　了解度	①　了解できる　②　丁寧な説明が必要　③　困　難
	4　視　力	【眼鏡使用：　有　　無　】 ①　普　通　②自分の周囲程度は見える　③ほとんど見えない
	5　聴　力	【補聴器使用：　有　　無　】 ①　普　通　②大きい声なら聞こえる　③ほとんど聞こえない
生活状況	6　排尿方法	①自立　②見守り　③一部介助(便所・ポータブル・尿器・おむつ・カテーテル)
	7　排便方法	①自立　②見守り　③一部介助(便所・ポータブル・おむつ・ストマ)
	8　食　事	①自立　②見守り　③一部介助(普通・軟食・きざみ・ミキサー食・特別食)
	9　服薬管理	①自立　②見守り　③一部介助
	10　入　浴	①自立　②見守り　③一部介助
	11　清　潔	①自立　②見守り　③一部介助(義歯：　有　・　無　)
	12　衣類脱着	①自立　②見守り　③一部介助
	13　金銭管理	①自立　②見守り　③一部介助
	14　電話利用	①自立　②見守り　③一部介助
	15 日常の意思決定	①自立　②見守り　③一部介助
	16　特記事項	

氏　名	氏　名　医院名	住　所	電話番号等
かかりつけ医師・病院			
ケアマネージャー			

避難所での生活を支援してもらえる方の　氏　名　・　住　所　・　電話		

永久保存

災害時要援護者対策ガイド

1ページ　要援護者ができる日頃からの心がけ
図表　1　家族の役割分担チェック表
図表　2　安否確認チェック表
図表　3　家屋の安全対策チェック表
2ページ　非常時の持ち出し品
図表　4　非常用持ち出し袋の内容チェック表
災害時要援護者　安全避難カードの作成・提出
避難支援者(避難介助者)の確保
3ページ　地域防災拠点、避難経路の確保
自分自身(家族)の力による避難
地域の方々で取り組むこと
近隣住民とのコミュニケーション
安全マップの作成
4ページ　地域の特性把握
地域資源の発掘
人　財
早く確実な避難の基本
5ページ　一緒に避難できない場合
自治会(班)の活動による避難
地域防災拠点の活動による避難
避難介助における地域の連携
隣近所における連携
隣近所の方へのお願い
安全避難カード
6ページ　災害時要援護者安全避難カード
災害時要援護者一覧表の作成等
要援護者避難所生活支援カード(生活支援カード)
1923年・2011年以降の地震の回数
7ページ　災害時要援護者安全避難カード(手上げ方式による提出用・用紙)

港南区(当自治会)では、要援護者の把握は手上げ方式で行います。

野庭住宅第五自治会

港南台地区意見交換会
テーマ：災害時要援護者対策について

【開催日】　平成29年１２月３日（日）　１３:３０～15:30　　【場　所】　港南台地区センター
【参加者】　53名（単位町内会の会長や防災担当者、地域活動者ほか）

【概　要】

災害時要援護者の支援について区連会、区役所がともに取り組んでいる。災害の被害を最小限にするためには地域で日頃から「見守り・支え合い」が重要です。意見交換で各町内会の取組（今やっていること、困っていること）を共有し今後の取り組みのヒントとなるようなことを持ち帰り、生かしてほしい。

【主な意見等】

■他地区の取組が分かり参考になった。（バンダナ、タオル、マグネット）

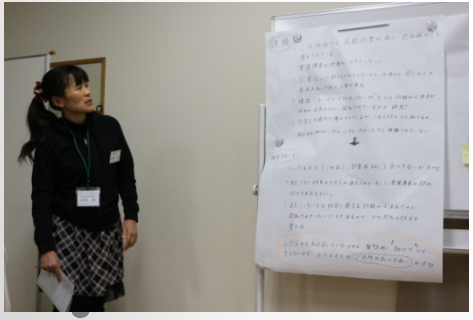
■民生委員の守秘義務と自治会の協力関係のバランスが難しい。情報の共有化が難しい。でも一番大事なのは命を守ること。

■近所と顔の見える関係を作ることが大事。自治会活動に参加しない人へどのように啓発していくのかが課題。

■このような意見交換会をもっと行ってほしい。

日野南地区 協働による地域づくり意見交換会
テーマ：イザ災害が起きた時、災害時要援護者を地域として支援するための課題は何か。

【開催日】　平成29年12月17日（日）　14:00～16:00　　【場　所】　日野南コミュニティハウス
【参加者】　５１名（自治会役員、地区社協、防災拠点、各委嘱団体メンバーほか）



【概　要】

日野南地区では平成20年から、防災拠点独自の仕組みとして、自治会の班をさらに分割した280の「災害時・助け合いグループ」を作り、災害時の助け合い・安否確認をすることとしている。今回の意見交換会では、①「助け合いグループ」の活性化、②要援護者を地域で支援するために、自治会や防災拠点などに何を求めるか。行政に何を期待するかを話し合った。

【主な意見等】

■助け合いグループは、良い仕組みであるが、10年近く経ち、グループによっては認識に温度差がでてきている。改めて周知の徹底が必要。もっと活用していくべき。

■災害時に助け合いをするには、普段からの近隣のコミュニケーションが大事。

■女性と比べて、男性は近所のことを知らないのでは。犬の散歩やごみ出しをするだけでも話しかけられ、コミュニケーションにつながる。

■コミュニティにおいて、子どもの力は大きい。もっと子供を含めた催しが必要なのでは。

■防災拠点は、すべての要援護者を収容できない。行政は特別避難場所等の仕組みをもっと考えてほしい。

平成２９年度第２回永野地区全体会議（永野地区意見交換会）
テーマ：「第３期くじら計画２年目の振返りと３年目に向けて」

【開催日】　平成３０年２月４日（日）　13:30～16:00　　【場　所】　東永谷地域ケアプラザ
【参加者】　６９人（各単位町内会から４９人、支援チームから２０人）

【概　要】

冒頭、ファシリテーターが説明するかたちで、29年度第１回全体会議を振り返りながら、各単会の取組課題について再確認した。

その後、各単会ごとに、29年度活動の実績・成果と、30年度に向けての取組課題について、グループ討議をし、その結果を発表し合い、情報共有した。

【主な意見等】

■防災減災の取組
・障害者(視/聴/知/精)の防災訓練参加、出前講座
・「無事ですバンダナ」を用いた訓練実施
・いっとき避難場所の新設/増設/周知の取組
・MAP作成（cf.翌年度；消火栓位置図）、AED講習、感電ブレーカーの普及、防災センター見学

■見守り・支合い（顔の見える関係づくり）
・要援護者名簿づくりは難航 ← 個人情報の壁
民生委員に対する期待大、区による研修の要望
・「組」編成の見直し検討（街路式←街区式）

■担い手づくり
・男性不参加、こども/中学生の取込み、役員不足

第９回みんなで上大岡を考える会（上大岡地区意見交換会）
テーマ：発災時の要援護者問題、安否確認について

【開催日】　平成30年2月１０日（土）　14:00～16:00　　【場　所】　ウィリング横浜12階会議室
【参加者】　47名（プラス：行政、地域ケアプラザ、社協スタッフ）

【概　要】

発災時の要援護者支援及び安否確認について、７つのグループに分かれて現時点で取り組んでいること、課題等について意見交換を行い、最後にグループごとに発表を行いました。

また、意見交換会で出された意見は、今後立ち上げ予定の「災害時要援護者支援委員会（仮称）」「災害時安否確認委員会（仮称）」の参考とし、具体的な取り組みを検討していくことも周知されました。

【主な意見等】

■アンケート結果
　とてもよかった 61.8%、まあまあよかった 34.0%、無回答 4.2%
■いきなり全体で動くのは難しい。まずは小さい単位で関係づくりをしながら動いていくのが良いのではないか。
■日頃からの取組が重要（あいさつのできるご近所づきあい、各家庭での備え等）
■安否確認用のツールについて、どのようなものが良いのか十分に検討する必要がある。
■町内会未加入者の取扱いをどうするか。
（特にアパートの場合は人の入れ替わりが早いので、把握が難しい。）

笹下地区意見交換会
テーマ：「ささげ祭り」のこれからを皆で考える

【開催日】　平成30年2月17日（土）　18:00～19:00　　【場　所】　港南中央地域ケアプラザ
【参加者】　４０名（この他、行政・CP・社協の職員が参加しています。）

【概　要】

原田連合副会長から、ささげ祭りの歴史について説明がされた後、参加した地域の方から活発な意見が出され、模擬店のあり方や誰でも参加できるイベント内容、ブラスバンドの参加の仕方などについて、多くの意見が出されました。

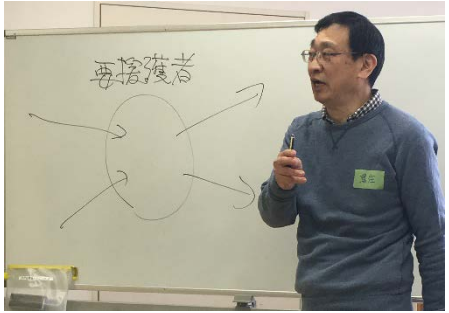
また、意見交換会で出された意見は、今後開催される実行委員会において、具体的な取り組みが検討されることも周知されました。

【主な意見等】

✔フォークダンスはよかった。プログラムの一つにして、全員に呼びかけるかたちにしたほうがよい。
✔スポーツだけでなく、例えば、子ども達が好きそうな体力測定をお昼休みにやってみるなど、楽しみながら3 世代交流ができるのが大事。
✔ブラスバンド演奏をする中学生を一日拘束するのは負担。参加時間帯を分けるなど、拘束時間を短くした方がよい。
✔「ふるさと」の行事としては、模擬店は子どもと接触する良い機会でもある。

永谷区地域支えあいネットワーク会議（第３回）
テーマ：「出されたアイディアの実現のために」企画書づくり

【開催日】　平成30年２月19日（月）　14:00～16:00　　【場　所】　芹が谷地域ケアプラザ
【参加者】　34名（町内会会長、民生委員、学校関係者、エリア内の郵便局、新聞販売店、地域ケアプラザ、区社協、区役所）



【概　要】
第１回、第２回の話し合いをもとに
①大人から子どもまでつながるみんなのマップ
③高齢者見守りサポーター
について、具体的に実現するための方策を予め用意したシートに基づき３グループで話し合いました。

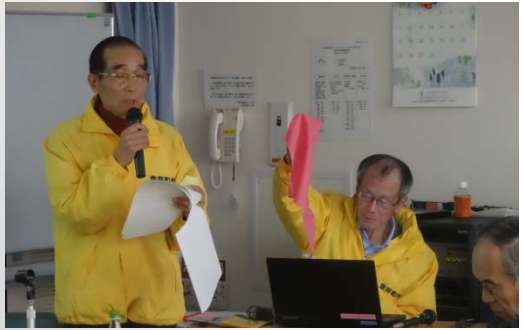
【主な意見等】
■新聞の折り込みに「町内会に入ろう」など勧誘チラシを入れてもらう。
■郵便局にひまわりホルダーの案内チラシを置いてもらう。
■見守っていて、心配なことがあった時の連絡先（例えば地域ケアプラザ）を明確にしておく。
■電気、水道、ガスなどの検針や、宅配便、郵便、新聞配達などに見守りを広げていく。
■30年度中に芹小、芹南エリアの白地図にまずは小学生が情報を書き加える。
■地図の対象を小学生から中学生に広げ、いずれは高齢者の情報も加えていく。

日野地区「日野地域づくり意見交換会」（意見交換会）

テーマ：地域の状況を日ごろから把握し、災害時に備え“近助力”を高めます

～わがまちの備えと“近助力”の活かし方を考え、要援護者を支える体制を検討しよう～

【開催日】　平成30年2月24日（土）　13:30～15:30　　【場　所】　日野南地域ケアプラザ
【参加者】　63名（地域参加者49名、他　区役所、区社協、ケアプラザ職員など14名）



【概　要】

昨年９月の災害時要援護者対策をテーマにした意見交換会に引き続き、より具体的に各町内会で取組を進められるよう、話し合いを行った。

はじめに、被災地の現状に関する認識を共有するため、岡野係長と金井町内会の堀さんから熊本の震災時の避難所の様子などを説明してもらった。

その後、日野地区の中で進んだ取組を行っている金井町内会から３名のパネラーを出していただき、金井ふれあい防災ネットワークの取組（ふれあいボランティア、ピンクのハンカチ、救急キット、家族構成表など）についてお話しいただき、各町内会のグループごとに来年度取り組みたい内容についてまとめていただいた。

【主な意見等】

・近所の付き合いをベースにした災害時の組織づくりが必要
・町内会に加入していない人への対応が難しい
・今後は、今日話し合った「取り組みたいこと」を「取り組んだこと」として話し合えると良い。

野庭団地地区地域支えあいネットワーク会議（野庭団地地区意見交換会）

テーマ：・いきいき健やか❤ふるさとのば　２年目の振り返りと次年度に向けて
・地域の助け合いについて（※介護保険や福祉ネットワークの現状）

【開催日】　平成29年２月25日（日）　13:00～15:00　　【場　所】　野庭地域ケアプラザ
【参加者】　52名（単位町内会の会長や防災担当者、地域活動者ほか）

【概　要】

前半は「ひまわりプラン地区別計画」における各自治会の取組状況と次年度どのように取り組んでいくかについて、自治会長から５分程度お話しいただきました。

後半は「地域の助け合いに」ついて、野庭地域の現状や福祉ネットワークの取組について説明。高齢化に伴い、制度上での対応だけでなく地域でも支えていく仕組づくりの必要性について話し合いました。

【主な意見等】

■高齢者（80歳以上）が増えて、買い物弱者が散見される。何ができるか意見集約を進めていきたい。

■会館を改修し、会議室をコミュニケーションの場にしたい。規約を今の時代に合わせて改正したい。

■フロアー毎で集まっての話し合いが重要と考えているので、次年度はそれを重視して進めていきたい。

■近隣での「きめ細やかな」助け合いが出来ていく、そういうしくみが今、必要なのではと感じました。

■顔の見える近所同士の支えあいと福祉ネットワーク等の組織的な支えあいの２本立てで取り組んでいくべきではないか。

大久保・最戸連合意見交換会
テーマ：災害時要援護者対策について

【開催日】　平成30年３月24日（土）　18:00～20:00　　【場　所】　大久保町内会館
【参加者】　約50名（単位町内会の会長や防災担当者、地域活動者ほか）

←林会長挨拶

↓発表の様子

【概　要】

災害時要援護者対策について、連合内の５つの町内会からそれぞれの取り組みを発表し、意見交換を行いました。それぞれの取り組みを共有することで、新たな取り組みのきっかけになったり、各町内会の取り組みがレベルアップできる機会になると良いという林会長の挨拶に始まり、最戸町の柘さんの司会で各単会10分以内という制約を設け、スライドを使用して発表し、最後に参加者から意見をもらいました。

【主な意見等】

■災害時要援護者の捉え方について、乳幼児や妊産婦、外国人など助けてと声を上げられない人に声かけをしていくべき。
■名簿を作るためには、日頃からの声かけが重要。
■個人情報の取り扱いに注意が必要で、名簿の管理体制は厳重にしなければならない
■日頃の付き合いだけでは拾いきれない要援護者をどう拾うかが課題になる。